

マリックスオフィスシステム株式会社

2015 年度 環境活動レポート

(対象期間： 2015 年3月1日 ~ 2016 年2月29日)



作成日： 2016年5月9日
更新日：

■ごあいさつ

昭和40年の創業以来、大阪府下を活動の中心に複写機、複合機を主としたOA機器の総合商社として歩んでまいりました。『快適、安心安全なオフィス環境を創造していただくための高品質な機器・サプライをご提案すると共に、保守に至るまでのトータルソリューションを真心を込めてご提供することに最善を尽くします』を経営理念に、お客様は当然のこと、お客様のお取引先の未来までを見据えた事業を進めて参ります。また弊社は2015年1月をもちまして創業50周年を迎えますが、この長い歴史の中で積み上げてまいりました社会との信頼関係が更に強固なものへととなりえますよう地域社会の皆様にも目に見えて認識いただける環境活動にも注力をしてまいりたいと考えております。どうか新たなスタートを切りましたマリックスオフィスシステムに大きなご期待を頂きますようよろしくお願いいたします。

マリックスオフィスシステム株式会社

代表取締役 苦瓜 正之

■環境方針

私たちは環境保全の重要性とその社会的、公共的使命を自覚し、全従業員が事務機器販売及びサービス業務の活動を通じ、定めた行動指針のもと積極的に地球温暖化問題に取り組みます。そして自然環境に好影響となるよう環境目標を設定し、達成に向けての取組みサイクルを継続、改善し、その実績を一般公表いたします

1. 環境に関する法規制や組織が同意するその他の重要事項を遵守します
2. 省電力と適切な車両運行管理により二酸化炭素排出量削減を図り、大気汚染予防に努めます
3. 節水による水使用量と排水量の削減に努めます
4. 廃棄物排出量削減に向け、分別の徹底等の適正処理と、機械部品等のリユースに留意します
5. 環境に配慮した商品の販売推進と保守活動に努めます
6. 社内備品、事務用品・車両等のグリーン購入と調達に努めます
7. 会社周辺道路の清掃活動による美化維持に努めます

制定日：2009年3月1日

改定日：2014年5月1日

代表取締役 苦瓜 正之

■組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
マリックスオフィスシステム株式会社
代表取締役社長 苦瓜正之
- (2) 所在地
本 社 大阪府大阪市住吉区长居西3-1-32
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 取締役 吉川 雅偉 TEL : 06-6609-2661
担当者 業務課 天野 世津子 TEL : 06-6609-2661
- (4) 事業内容
OA機器全般及びその消耗品・通信機器・高度管理医療機器の販売業、
賃貸業及び修理業、IT管理サービス等のオフィスソリューション事業
- (5) 事業の規模
売上額 8.0 億円
- | | 本社 | 合計 |
|-----------|--------|--------|
| 従業員 (人) | 26 | 26 |
| 延べ床面積 (㎡) | 347.13 | 347.13 |
- (6) 事業年度 3月～2月

■認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： マリックスオフィスシステム株式会社
対象事業所： 本社
活 動： OA機器全般及びその消耗品・通信機器・高度管理医療機器の販売業、
賃貸業及び修理業、IT管理サービス等のオフィスソリューション事業

■主な環境負荷の実績

項目	単位	2013年	2014年	2015年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	69,005	63,355	62,508
廃棄物排出量	kg	6,337	6,741	6,223
一般廃棄物排出量	kg	770	1,291	1,333
産業廃棄物排出量	kg	5,567	5,450	4,890
総排水量	m ³	172	165	145

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.450 kg-CO₂/kWh

■環境目標及びその実績

項目	年度	基準年 2013年	2015年		2016年	2017年
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	15,741	14,639	13,404	13,379	13,301
	基準年比		93.0%	85.2%	85.0%	84.5%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	53,264	48,470	49,104	48,470	48,204
	基準年比		91.0%	92.2%	91.0%	90.5%
一般廃棄物の削減	kg	770.3	1,271.0	1,332.7	1,271.0	1,263.3
	基準年比		165.0%	173.0%	165.0%	164.0%
産業廃棄物処理依頼量の監視	kg	5,567	5,567	4,890	適正処理監視	適正処理監視
	基準年比		100.0%	87.8%		
水道水の使用量維持	m ³	172.0	164.3	145.0	144.5	143.6
	基準年比		95.5%	84.3%	84.0%	83.5%
グリーン購入の推進			実態把握	実施せず	実態把握	目標設定
製品・サービスへの環境配慮	台	255	260	277	263	265
	基準年比		102%	109%	103%	104%

製品・サービスへの環境配慮の2016年2017年目標が、2015年実績より減少していますが、2015年5月に大口契約があったためです。

■環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度の取組	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減			
数値目標	◎		節電の取り組みは社員にしっかり定着し、実行しているため削減できています。 2016年2月には、全フロアLED照明への切り替えが完了しました。
・室内温度の調整（夏季26℃ 冬季22℃）	○	継続	
・温度計の設置	◎	継続	
・エレベータ使用を控え階段の利用促進	○	継続	
・2F～4F電気温水器 冬季以外は電源オフ	◎	継続	
・不使用エリアの消灯	◎	継続	
自動車燃料による二酸化炭素削減			
数値目標	×		12月で累計目標がクリアできたが、1・2月の実績が悪かった。省エネ走行の促進を継続します。
・アイドリングストップ	△	継続	
・タイヤ空気圧の高め設定	○	継続	
・省エネ走行（急発進、急制動、法定速度）	△	強化	
・積載荷物の軽減・整理（サービス車）	○	強化	
一般廃棄物の削減			
数値目標	×		両面コピー、裏紙の利用、段ボール箱・梱包材の再利用など徹底していますが仕入商品のほとんどが配送であり、段ボール箱等 紙類の廃棄が増加しています。 可燃ゴミは減少しています。
・分別の徹底・3S運動（整理・整頓・清掃）	○	継続	
・両面印刷・両面コピーの推進	◎	継続	
・裏紙の利用	◎	継続	
・社内会議のプロジェクター使用	◎	継続	
・段ボール箱・梱包材の再利用	◎	継続	
産業廃棄物処理依頼量の監視			
数値目標	—		メーカーに返却できるものは返却し、産業廃棄物は減少しています。 今後も、引き続き取り組んでいきます。
・適正なマニフェスト処理と管理（依頼先・社内）	○	継続	
・産廃処理（廃棄依頼）量の計測監視の継続	○	継続	
・メーカーに返却できるものは返却する	◎	継続	
水道水の使用量維持			
数値目標	○		総排水量、削減できています。 今後も無駄のない水の使用に取り組んでいきます。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	◎	継続	
・節水型器具（タンク/カラン）の採用（交換時期）	×	継続	
・出しっ放し禁止	◎	継続	
グリーン購入の推進			
・社内用品購入時のチェック強化	×	継続	主な購入品は、コニカミノルタ推奨のカタログ通販を利用しているが、実態把握は出来なかった。
製品・サービスへの環境配慮			
数値目標	○		年度末の販売キャンペーンの効果で累計目標がクリア出来ました。
・客先業務合理化の提案促進（主にデジタルMFP）	○	継続	
・MIF機の省エネ設計機種へのリプレース推進	○	継続	
・客先省エネ促進商材の提案（取扱商品全般）	○	継続	
・メーカー協賛の拡販キャンペーン実施	○	継続	
・商品の勉強会	○	継続	
社会貢献			
・会社周辺の清掃活動	◎	継続	当社清掃活動は10年に及び、地域にも定着、認識されています。

■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ等）
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
消防法（危険物）	シンナーの保管
改正フロン法	空調機、冷蔵庫
NOx・PM法	技術/IT/営業担当 4ナンバー車両
消防法	危険物の保管
グリーン購入法	事務用品等の購入
グリーン調達基準	OA機器の販売（大阪市・八尾市）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

■代表者による全体の評価と見直し

本来業務での顧客先環境活動は内容が定着し、新たな取り組みの着手が検討される中、社内計画として本年度の課題は社内美化、職場環境の改善となりました。これは私のコニカミノルタ東京本社のオフィスツアー参加が大きなきっかけとなったのですが、ゴミを出さない、省エネせざるを得ないオフィスの仕組みとは・・・ここが参考となり自社オフィス環境改善が最優先との判断に至りました。費用拠出すれば当期前半に着手完了できましたが雨漏りによる屋上の防水工事を優先し延び延びとなってしまいました。それでも期末までには社内改装がほぼ完了した状況ですが、仕事をし易い環境とはどういうことか、自社をモデルに客先に提案、提供できる事柄が見出せるのではないかと考えます。環境チームにはこの事業のための整備に時間をとらせてしまい対目標活動が十分になし得なかったと考えますが、しっかりと監視、改善を1年継続してくれました。チームには改めて次期より中小、スモールオフィスにおける環境改善と美化活動に貢献できる内容を社内発信してもらいたいです。また社内分煙化は定着したようです。

■環境活動の紹介

■毎朝の会社周辺道路の清掃活動

